

北上市P連会報

第33号

平成23年
(2011年)
12月20日

発行:北上市PTA連合会

企画編集:広報委員会

印刷:北上アビリティセンター



平成23年3月11日(金)午後2時46分に東北地方・三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生し、我々が住む岩手県内でも、沿岸部では大津波で多くの尊い命が犠牲になりました。ご冥福をお祈りし、一日も早い復興を望みます。

この大震災で「何気ない日常生活を送れることのありがたさ」や「震災への対応」を強く感じさせられました。

子ども達が落ち着いて勉強し、運動ができる事。そして地震等の災害が起きた時にどう対処するか。おとなとして、親として、何ができるのか考え行動しましょう。

目次

- ☆ 特集 東日本大震災……………P1-3
- ☆ 特集 成田小学校閉校……………P4
- 南中学校「創立50周年」……………P5
- 和賀東中「創立40周年」……………P6
- 和賀東小「創立10周年」……………P7
- ☆ 報告1 P会長・校長・副校長・三者研修会……………P8-9

- ☆ 報告2 市P連母親委員会……………P10
- ☆ 報告3 日本PTA全国大会広島……………P11
- ☆ 報告4 東北P連秋田大会……………P12
- ☆ 報告5 北上市PTA連合会教育講演会……………P13
- ☆ 報告6 岩手県PTAリーダー研修会……………P14
- ☆ 市P連会長挨拶・編集後記……………P15

北上市PTA連合会ホームページ <http://www.kitakamipta.net/>



特集「東日本大震災」

その時私は、職場の二階でパソコンを使って作業していた。部屋には私を含め3人が居た。

おっ地震だ！ちょっと長いな。そんな軽い気持ちはすぐに吹き飛んだ。淹れたばかりのコーヒーが溢れる。スチール製の重い本棚がせり出してきた。

「やばい！」今までに経験した事のない揺れ方だ。停電になりパソコンの電源が落ちる。作業中のデータの行方より、自分の身が心配になる。床が落ちるのではない。建物が崩れるのではない。

揺れの割には、大きな被害もなく、余震が続く中「強かったねえ」と呑気な会話をしばらくしたのち、家族が心配なので自宅に帰ることにした。

自宅も大きな被害もなく、全員無事であった。うちのあたりは地盤が強いらしい。とにかく良かった。水道も出るし、プロパンガスも使える。電気だけが使えない。

一通り無事を確認した妻が、オール電化の家に住むママ友と話をしている。どうやら暖房どころかトイレの水も流れないらしい。文明の落とし穴である。

私の家は、まきストーブが居間にあり、ローソクもたくさんあった。水道やガスが使えないアパートに住むママ友もいて、私の家は昼のあいだ、簡易避難所となった。

一番喜んだのは、子ども達である。十人以上の子ども達が上を下への大騒ぎである。

電気が復旧した3日後の夕方、みんなで万歳三唱をしたのち、それぞれが自宅に帰って行った。友達が帰ってしまい、遊び足りなくて言う事を聞かない我が家の子ども達に、さすがに堪忍袋の緒が切れた。

そんな子ども達がテレビをつけると、そこには津波の映像が繰り返し流されていた。携帯テレビで見ていた私も、大きな画面で見たら改めてショックを受けた。大切な人を失い、海に向かって泣き叫ぶ少女の映像を見て、子ども達は先ほどまでの態度とは一変、言葉を失いながらテレビを見ていた。子ども達は被害の大きさを少しでも理解してくれたようでした。

今では、学校で復興教育の一環として沿岸の学校を支援しているので、十分理解していると思うが、実際、自分の目でまだ沿岸を見ていない。

「百聞は一見にしかず」

親として、未だ復旧の途中である沿岸を見せて、何かを感じとってほしいと思っている。

震災をテーマに、ほかのPTA役員からエピソードを募りました。(2件)

わたしの3月11日

あの日は、短期のバイトのため農協の3階にいました。この位でおさまるという過去の体にある記憶を遙かに超えた揺れが続き、パソコン・プリンタがテーブルの上を右に左にと動いていました。側にいたおばちゃんの手を握り背中をさすりながら、「大丈夫、大丈夫」と声をかけていました。おばちゃんを避難させて、すぐに頭に浮かんだのが6年生の一人息子のことでした。午前授業だった為、午後は友達の家遊びに行くと言っていたので、すぐにそのお友達の家に向かいました。

友達の家から興奮して出てきた息子の顔を見て無事を確認できて涙がでてきたのと同時に、ホッとしたからか、急に怖くなりハンドルを握る手が震えた事が思い出されます。

あの日、わたしは、息子に会えました。ギュッと息子を抱きしめる事が出来ました。

でも、同じあの日から大切な人に会えない人がたくさんいると思うと胸がつまる思いです。

ただただ 祈っています。

いつか悲しみが

少しでも薄らぎますように

つらい思い以上に

絶対幸せが訪れますように

「震災」

普段当たり前のように使っていた電気や水道が止まり、今までどんなに恵まれていたのかに気付きました。

地震が起きて一番強く思った事は、人との繋がりで。大事な人の本当のありがたみ、家族、地域同士の強い繋がりを感しました。

そして震災後、防災に対する意識の変化がありました。子どもたちを守りたい、子どもたちにしっかり伝えたいという思いが強くなり、家族で話し合いました。

家には、小学校低学年の子がおり、最初は悩みましたが被災地沿岸の現状を見せに連れて行きました。小さい子ながらに何かを感じたようでした。



津波と地盤沈下で破壊された港湾

「防犯について」

岩手県はこれまで人と人が触れ合い、助け合うことによって、顔の見える地域社会が維持され、「結いの精神」を発揮してきました。しかし震災は、被災者に住環境の変化をもたらし、顔が見えることによって得られていた安心感が失われることが心配されています。

被災地では避難中の民家や店舗から金品が盗まれた事案や、コンビニ等のATMから現金が盗まれた被害が多発したと報道されましたが、岩手県での被害は比較的少ないものとなっています。

		岩手県	宮城県	福島県
金融 機関	件数	1(うち未遂1)	5(うち未遂0)	5(うち未遂4)
	被害額	0	約1500万	約37万
コンビニ 等	件数	2(うち未遂0)	14(うち未遂2)	29(うち未遂0)
	被害額	約2700万	約1億6500万	約4億7700万
空き巣		約70件	約310件	約490件
出店荒らし		約50件	約220件	約110件

(岩手県防犯協会連合会資料)

3月11日～6月30日認知状況

停電の暗がりには犯罪を誘発しましたが、逆に家に人がいることで、犯罪は抑制されたようです。治安が大きく崩れなかったのは、全国から応援に駆けつけてくださった警察官をはじめとする皆さんの協力の賜です。残念ながらごく一部に犯罪にかかわった人が岩手にもいましたが、「結いの精神」を再確認して最善の防犯である、「顔の見える生活」を築いていきましょう。

東日本大震災災害支援を

振り返って

最近届いた被災地の既知の先生からの手紙には、災害直後の避難者の誘導やお世話の様子と、教職員らが電気のない、暖房のない、何もない保健室で毎日寝泊まりをしたことや、避難された方には支援物資が届いても、自分たちには何もない状態で支援にあたったことなど、余りにも多くの混乱や窮状が生々しく綴られていた。

私たち北上市PTA連合会では、内陸地域で震災後一定の生活復旧がなった3月30日(水)に、会長の発案により臨時の役員会を開き、現地情報の収集にあたった。

すでに現地入りしていた、小原副会長より報告があり、長靴や傘など生活物資の不足の現状、人的、物的被害の膨大さが語られた。一方、現地では入学式が延期され、子どもたちやその保護者に「私たちの真心」が届けられないかという意見が役員より出され、小学校入学児童のための晴れ着や靴を市P連が呼びかけて集め「私たちの真心」を行動で示そうという構想が生まれた。

当時はまだ、事務局校のFAXが不具合であったり、春休み中であったりと、連絡に多々困難がありました。

平成23年4月10日（日）、南ブロック（黒沢尻西小学校・南中学校）北ブロック（二子小学校・飯豊中学校）西ブロック（和賀東小学校・和賀西中学校）を会場にPTA会員、PTAのOBそして趣旨に賛同される方を中心に約2,000名以上の皆様に様々な物資を供出していただきました。同日、物資の集積と仕分けが、午前9時からPTA役員約30名、黒沢尻北高等学校生徒会役員、高校生ボランティアなどにより、南中学校の空き教室で行われました。作業は寸暇を惜しまず行われ、種別に整理、物資リストが作成されました。また、母親の皆様の提案で、晴れ着はサイズ別に、スーツ・シャツ、ネクタイ、靴などワンセットに梱包し、午後4時半に無事終わることができました。

同日、午後第1便として、要望のあったスクールバッグ120個を釜石東中学校（当時は甲子中学校に仮設置）に搬入しました。搬入に参加した役員5名は、帰路被災地の大船渡、陸前高田の現状を確認し、その後の活動の重要性を改めて認識致しました。



座礁し破損したままの遊覧船

その後、平日・土日を問わずのべ9回にわたり物資を輸送し、必要なもののみをお取りいただき、持ち帰った物資は再度整理しながら、現地のニーズに応じてお届けするという行動を実施しました。

この間、現地のボランティア、現地小中学校単位PTA事務局、北上市のボランティアの皆様に現地情報をい

ただき、アポイントを取ることができました。改めて感謝申し上げます。

吉里吉里、大槌、釜石、大船渡、陸前高田方面に、皆様から寄せられたたくさんの物資を提供致しました。



小規模な仮設住宅

あらかじめ考えた入学式用晴れ着、雨具の他、運動靴200足、ピアノカ150台、国語辞典100、水彩道具100、習字セット50、マスク・タオル多数などをお届けし、児童・生徒の学習や生活に役立てていただきました。

その後、内陸に転校した児童・生徒の皆様の要望により学用品も随時提供させていただきました。現在ある物資は、来年1月大船渡のリアスホールにて頒布する予定で、北上市の災害復旧ボランティアと構想を練っているところです。

多くの皆様の善意で結ばれた絆が、PTAの連帯とこれからの長い復興の灯火となることを願い、報告と致します。皆様の善意に改めて感謝致します。

北上市PTA連合会平成22年度 事務局



成田小学校の歴史と閉校

子どもたちが通う成田小学校は、豊かな自然に恵まれ稲作や果樹を中心とした田園地帯にあり、北上市の北端、花巻市との境界線に接し建っている。小学校の近くには対で残されている一里塚があり、奥州街道の道標（みちしるべ）として人々が行き交った昔を感じることができる。

成田小学校には、北上市成田の子どもたちと花巻市成田の子どもたちが通っている。

小学校は、明治11年2月1日に創立された。創立後、約25年間は校地校舎が確定せず一般住宅を間借りして過ごしてきた。校舎新築の許可は下りたが敷地が問題となり上成田、下成田、主張を譲らずしばらく紛糾を続けていたが、上下成田の中央ということで現在地に決定された。建築に当たっては材料や経費を部落に割り当てて持ち寄り、大工も成田の人達によって工事が進められ、明治36年11月に校舎が完成された。成田の人々が結束し小学校建築に当たり、完成をどれほど喜んだことだろう。

大正時代になると、児童数が百名を超え教室が不足し、二階を上げることになった。夏季休業中に一挙に工事を進め大正9年9月に完成した。授業を休むことなく工事を進めたのは教育を大事に考えていたのだろう。

激動の時代、困難の多い時代を過ごし、昭和22年新学制により「飯豊村立成田小学校」と改められた。

校舎も明治以来のもので老朽化しており、また戦時中の供木の残りが残り不用となったのでこれを利用して校舎の建て替えをすることになった。他の材料も部落供出のものが主に利用され建築責任者など、地元の方々の献身的な努

力によって落成を見た。

昭和29年4月の町村合併により成田地区は北上市に編入され、10月に学区の一部である上成田部落が花巻市に分市合併されることになったが、児童は両市の行政協定により引き続き本校へ編入させることになった。

昭和52年3月には校歌が、同年11月には校旗が制定され、地域に支えられながら昭和53年6月に創立百周年記念式典祝賀会、平成20年2月に創立130周年記念式典・祝賀会が盛大に挙行された。子どもたちの学びの場、地域の拠り所として成田小学校の果たす役割は大きかった。

昨年の7月、北上市教育委員会より北上市小中学校適正配置等基本計画案が示された。児童数の減少と校舎耐力度調査で老朽化が著しく進行しているため、可能な限り早い時期に飯豊小学校と統合とのことであった。

突然の新聞報道で驚き戸惑ったが、ついにくるときが来てしまったのかというのが正直な感想だった。2回の地域説明会の後、成田小学校区学校適正配置等地域協議会を設置することになり、3回会議がもたれた。我々PTAでも意見を集約するために話し合いやアンケートを行ったが、短期間での一本化は難しかった。しかし、子どもたちの行く末を考えた苦渋の決断がされ、平成24年3月末で成田小学校の閉校、4月より飯豊小学校並びに花巻市立南城小学校へ統合することに決定された。

134年目の今年度は何事につけても「最後の～」という思いがあり、寂しい気持ちになると共に小学校の歴史の重みや地域が小学校に寄せる思い等を強く感じてきた。行事を行う度に先生方、地域の方々、保護者が一体となって参加協力し、これまで以上に大いに盛り上げて頂いた。子どもたちは普段はできない学習もさせて頂き成田小学校での充実した学校生活を一生忘れないと思う。

また、保護者の要望としてお願いをしていた事前交流活動も行っていた。北上・花巻両市教委をはじめ、飯豊小学校並びに南城小学校の先生方や子どもたちにとっても親切にして頂きとても楽しかったという話を聞き、上手く馴染めそうだなと感じている。それぞれに期待と不安があると思うが、子どもたちには徐々に楽しい学校生活を今まで以上に充実した学校生活を送ってほしいと願っている。



来年 4 月から子どもたちは飯豊小学校と南城小学校に分かれてしまうが、今まで地域の温かい支えの下、脈々と歴

史を刻んできた伝統を誇りにしつつ新しい小学校で更なる飛躍を期待したい。

南中学校「創立 50 周年」

北上市立南中学校創立 50 周年記念式典及び記念事業として記念祝賀会が 1 月 26 日に盛大に開催されました。これまで、南中学校では 10 周年に植樹などによる校舎前の整備、40 周年で記念講演を行ったようですが、記念式典や記念誌の作成などは今回の 50 周年が初めてで PTA や地域の方による実行委員会を立ち上げ、手さぐり状態で昨年からの準備が進められ、当日を迎えました。

当日は、多くの来賓をはじめ、地域の皆様、旧職員他、在校生、教職員ら約 620 人が参加し、緊張の面持ちの PTA 副会長の司会で式典は進められました。

佐藤精晋校長先生は、南中学校の歴史に触れながら「よき伝統を引き継ぎ、新校舎とともに新たな歴史を紡ぎたい」と式辞を述べ、佐藤正昭実行委員長は、卒業生でもあり創立当時の地域の風景や鬼柳中学校と相去中学校の合併時の様子に触れながら、これからは「強く 豊かに おほらかに」の校訓のような生徒であってほしいと挨拶された。

引き続き、歴代校長先生、歴代 PTA 会長そして長年に渡り生徒を見守ってこられた地域の 3 団体、学校医の方々に感謝状が贈呈された。



記念品として実行委員会から、合唱用の台と大型複合機が中学校へ寄贈された。

最後に、在校生を代表して小澤前生徒会長が、宮沢賢治が思い描いたイーハトーブの人のように「逞しく、優し

い生徒がいる素晴らしい学校になるように努力したい」と決意を述べ、全校生による「イーハトーブの風」の合唱が披露され、記念式典を閉じました。

続いて、記念事業（公演）として、南中学区の相去藩境太鼓、鬼柳鹿島太鼓、陸前高田市から氷上太鼓の演奏が披露されました。氷上太鼓のみなさまからは、今年の東日本大震災のためメンバーも減ったが前を向いて元気に頑張っているとの挨拶がありました。



その後、卒業生を代表して第 6 回生の千田和秋様より、クラス会のすすめとして中学の友人をいつまでも大切に多くの人との関わりを持って、「絆」を大切にしたいと在校生へ激励の言葉を送りました。

その後、これからの南中学校へのエールとして数年前に復活した第 3 応援歌を在校生が力強く歌い記念事業（公演）を閉じました。

記念祝賀会は、場所を移し相去鬼剣舞の演舞で始まりしました。100 人以上が出席の中、来賓からの祝辞や歴代校長等から当時の話を聞きながら賑やかに進められ、全員で校歌を歌い、三三七拍子をもって閉会といたしました。

和賀東中学校「創立40周年」

「和賀町立東中学校」は、昭和47年に和賀町立岩崎第一中学校と同藤根中学校を統合し、藤根校舎と岩崎校舎としてスタートしました。翌48年新校舎が完成。同年12月に移転し、開校以来40年を迎える来年3月で4,684名の卒業生を輩出します。

平成23年度は、「意欲的な学びと躍動する活動を通して志を培う」を学校教育目標に、五つの挑戦を掲げて準備を進めておりました。しかし、3月11日の大震災及び4月7日の大きな余震は、学校活動に大きな影響を与えました。自然の脅威とともに、これまでの便利な生活のありがたみ、人と人との絆を認識するよい機会となりました。そして、学習や部活動、体育祭、文化祭などの例年事業にも、一つ一つの思いを大切にに取り組むことが出来ました。

また、平成14年度から取り組んだクラブ育成会の取り組みや、昨年度からの小中連携事業では、学校と家庭、地域が協力し、文武両道の実現を目指し、成果を挙げております。

さらに本年は、東中の「岩崎鬼剣舞」が、全国中学校総合文化祭の全体発表における最後を飾る演舞を披露し、高い評価を頂きました。

創立40周年を迎えるにあたり、昨年からPTA役員で事業の検討をしました。当初は、30周年や50周年とはちがい、式典・祝賀会のみを予定しておりましたが、地域企業からの寄贈や同窓会からの寄付により、四つの環境整備事業を実施することが出来ました。

一つめは、旭ボーリング株式会社からの井戸の掘削と手押しポンプの寄贈です。3月11日の大震災では、水の大切さを皆が実感しました。長清水という地名にふさわしく、大変よい水質の水をくみ出す事が出来ました。

二つめは、長年地域老人クラブに手入れをしていただいた花壇に散水するための水道工事です。以前から要望のあった事業ですが、この度有限会社中野商店の寄贈により実現できました。

三つめは、学校の顔である校章と校名のリニューアルです。特に校章は、すっかり腐食していましたが、ステンレスで今後の活躍を期する輝きに満ちています。

最後は、特に保護者から要望の多かった校門前の外灯設置です。



12月3日、例年実施されている東中の伝統行事「立志式」に引き続いて創立40周年記念式典、記念講演そして祝賀会を開催しました。

記念式典では、30周年以降の歴代校長、PTA会長への感謝状贈呈に加え、環境整備事業に寄贈頂いた2社への感謝状、長年学校の花壇手入れをしていただいた老人クラブ長沼二区幸会と郷土芸能の指導をしていただいた岩崎鬼剣舞保存会へ感謝状を贈呈いたしました。

記念講演には、本校第五回卒業生で著書も多く、テレビにも数多く出演されている大先輩、現在送風会佐々木病院精神科医診療部長の斎藤環先生をお招きしました。斎藤先生は、「ひきこもり」に関する研究の第一人者でいらっしゃる、「しなやかな志を持とう」という演題で講演をしてくださいました。

祝賀会は、百名を超える参加を頂き、JAはなまき和賀町支店で盛大に開催されました。多くの関係者のご協力のもと、来る50周年に向け、有意義な40周年事業となりました。

和賀東小学校「創立 10 周年」



本記念事業実行委員会は、東日本大震災からの復興支援を重点に置き、「未来へのかけはし」をテーマに、記念事業を展開してきました。

6月1日にNPO法人岐阜立志教育支援プロジェクト理事の角田識之さんを講師に迎え、「志授業」を行いました。角田さんは「皆さんの一人ひとりが主役である。自分が将来どうなりたいかを考え、諦めないこと。志を明確にすることが幸せな人生のスタートになる。目標や夢を持てば未来は変わってくる。」と述べ、児童は志を持つことの大切さを学びました。この講演のあと児童は、立志教育として、将来設計である「お役立ち山」と、「夢作文」をまとめました。

9月26日には、支援校である釜石市立鶴住居小学校に、本校児童全員が寄せ書きした応援メッセージを届けました。つづいて11月7日に、開校以来行ってきた稲作体験で出来たお米と、学習発表会での募金活動で集めた義援金を届けました。

今年度の稲作体験では、「願・復・興・!!・が・ん・ば・ろ・う・い・わ・て・!」と一つ一つに願いを込めた13体の案山子を作成し、田んぼの守り神としました。

11月12日に本校の創立10周年記念式典が行われ、全校児童と教職員、来賓、旧職員、保護者、地域の方々及び記念事業実行委員ら合わせて約500人が出席されました。

中川校長は、日頃の児童の様子に触れ「皆さんにはまだまだ力があります。夢を持ち、それを志にまで高め、叶えてください。それが和賀東小の誇りであり、岩手復興の源となると確信しています。」、そして「和賀東小の更なる発展を願い、皆様と力を合わせ、一層の努力を重ねて参ります。」と式辞を述べました。

石川秀司記念事業実行委員長は、志授業直後の児童の感想や、被災した釜石市立鶴住居小学校への支援など記念事業の紹介を含めて挨拶。来賓より祝辞をいただいたあと、学校活動や交通安全指導などに開校以来貢献していただいた地区のみなさん7名に感謝状を贈呈しました。

式典の後半では、児童による「東小ぶち合わせ太鼓」の演奏と「この星に生まれて」の合唱のほか、学校の歴史、先輩達や地域の方々への感謝、震災からの復興、夢作文が発表され、「ふるさと岩手、和賀東のため一步一步歩み続けます」「夢に向かって歩み続ける今の僕たち私たちが10年後20年後の未来へのかけはしとなるように」との全校児童による呼びかけに、会場から大きな拍手が送られました。

式典後には記念祝賀会が開かれ、本校の児童も活動する地元の北藤根鬼剣舞が会を盛り上げ、盛会のうちに祝賀会を終了しました。



報告1

平成 23 年度 P T A 会長・校長・副校長・交流研修会

9 月 10 日（土）15 時 30 分からホテルシティプラザ北上に於いて「平成 23 年度 P T A 会長・校長・副校長・交流研修会」が開催されました。

講師に聖路加看護大学臨床教授、医学博士の進 純郎先生をお迎えし、ご講演をいただきましたので、その一部を紹介します。

「こころの子育て」

講師：聖路加看護大学臨床教授

医学博士 進純郎先生



主催者挨拶

北上市小中学校副校長会

会長 昆野ひろ子先生



祝辞を述べられる

北上市教育委員会教育長

小原善則様



講師を紹介する

北上市小中学校副校長会

副会長 工藤信行先生

皆さんこんにちは、只今紹介いただきました進 純郎と申します。私は、東京都文京区にあります東京大学のすぐ近くにいます日本医科大学の出身です。日本医科大学の出身者で有名な方は、野口英世さん、トーマス野口さんがおります。私は、日本医科大学卒業後、日本医科大学産婦人科入局、その後、葛西赤十字産院院長、2009 年聖路加看護大学臨床教授、2010 年より聖路加産科クリニック所長を務めています。そして、現在岩手県一戸町の深山で晴耕雨読、自給自足の生活をしながら、医学書の執筆をしていますし、趣味として木工彫刻を研鑽中です。（私の妻の郷里一戸に現在住んでいます）

さて、皆さん、現在は「マウス・イヤー」と言われます。昔の 30 年間で今では 1 年で過ぎてしまいます。現在は「忙しすぎる時代・間の抜けた時代」です。周囲の人々の悲しみ、苦しみ、喜び、幸せなどを考えてあげる暇がないのです。それは「無関心」につながります。それは「いのちの軽視」につながります。

ところで、ひとの誕生は 3 つあると言われます。第 1 の誕生は「肉体の誕生」、第 2 の誕生は「意識の誕生」、第 3 の誕生は「魂の誕生」です。

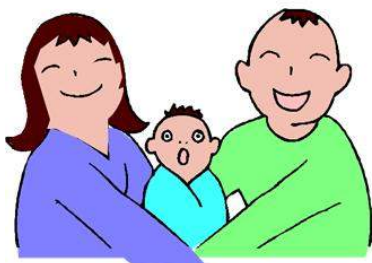
第 1 の誕生「肉体の誕生」は 0 歳から 3 歳までの時期です。「体」と言う字を「からだ」と読むのは日本だけです。漢字を作った中国でも「たい」としか発音しません。日本人の発想ってすごいですよね。生まれたばかりは「何にも染まっていない『からだ』」と考え、その後の教育によって、「体」は色々なふうに使えるようにできるので「体」と読むようになったのです。



第 2 の誕生は「意識の誕生」。この時期に大切なことは「抱っこ」です。母と子の絆が育ちます。「育児の基本は育自」です。親が「親」をしなければ、子は「子」に育ちません。両親は子どもの手本になる「良心」でなければなりません。よく「三つ子の魂百まで」と言われますが、人間として必要不可欠な基本的感性は、ほとんど乳幼児期に植え付けら

れます。「母性」と「父性」は育児の両論です。「母性」は無条件の保護の優しさであり、「父性」は条件付きの愛情＝つまり厳しさなのです。

でも、最近この「母性」と「父性」が逆になっている場合がありますから気をつけましょう。



第3の誕生「魂の誕生」、3歳から8歳が「双葉のころ」、9歳から13歳「若葉のころ」です。子どもは親の背中を見て育ちます。子どもの問題行動は、親の態度と関係しています。親にとって都合の良い子に育てないことです。子どもの未来を早めに決めようと焦らないことです。子どもは、なにかにぶち当たっては失敗し、泣きわめいては気を取り直し、右往左往した果てに気がついたら、それなりに育っていた、この時期は、そんなのんびりとした時間を是非親子で共有してほしいです。

「双葉のころ」（3歳から8歳）は、挨拶から始めましょう。子どもの機嫌をとらないこと、自分のことは自分でできるようにすること、必ず家の手伝いをさせましょう。家族団欒の為みんなで食事をとりましょう。整理整頓、清潔習慣を身に付けさせましょう。テレビゲームは「脳内汚染」を引き起こしますので注意して下さい。

この時期親の態度として、「子どもとの約束は必ず守ること」「他人の悪口を言わないこと」「差別をしないこと」「子どもの質問にはきちんと答えること」が大切です。

「若葉のころ」（9歳から13歳）＝中学生時代、未踏の大地に「心と身体」が歩み出す時、仲間達との大きな連帯を生み出す時、自分の心の中に「創造」の風が吹く時、叡智えいちの湧出が起こる時です。また、この時期は、肉体的変化が起きる時で、「性ホルモン」の分泌が出る時です。女子の「初潮」、男子の「夢精」など体的変化があり子どもが戸惑う時期ですが、そんな時親としてしっかり教えてあげることが大切なのです。

「知育」「徳育」「体育」は家庭で教えるものです。基礎は親が育むものです。「学校」は「より高度な学問を教えるところ」なのです。

一般に細胞は「1,000億個」もあると言われます。「教師」は、子どもの脳神経回路の配線状態を調査し、修理し効率よく活性化させる修理屋さんです。「勉強ができる子」は「記憶システム」と「表現システム」が素早い、「勉強ができないと思われる子」は「記憶システム」と「表現システム」がのろいだけです。時間をかけるとできますし、むしろこのタイプの人々が学者やノーベル賞を受賞したり、社会に出て活躍したりしています。

更に、「若葉のころ」は、「性」への目覚めと「山積みの学問」があり、考え込んだり、反抗したり、引きこもりになったりします。こんな時親としてどう対応すればよいのでしょうか。まずは「踏み込まない」「そっとしておく」「よく聞く」、そして親として「経験談」を話すことが大切です。

みつをさんの詩の中に「出逢い」と「道」という詩があります。「いつどこでだれとだれがどんな出逢いをするかそれが大事なんだなあ」、「道は自分でつくる 道は自分でひらく 人のつくったものは自分の道にはならない」また、私の好きな言葉に「200%の夢を持とう そうすればたとえ夢が破れたと思っても100%の夢が実現できるでもその為には、努力、忍耐、精進、我慢、苦勞が必要だ」です。

私からは是非親の皆さんに「親の心得」として持っていてほしいことは「子どもの未来まで背負わないこと」です。テレーズ・マルタンさんが「神はその人が背負えないほどの重荷を背負わせることはありません」と言っています。是非子どもに対して人生の先輩として良きアドバイスをし、てあげてください。本日はご静聴ありがとうございました。



謝辞を述べる嶽間澤健一郎北上市PTA連合会会長

報告2

「母親委員会の活動」

2011年3月11日 東北地方太平洋沖地震及び津波により被災された方へ心からお見舞い申し上げます。

さて、母親委員会は市内の9中学校区から選出された9名の母親委員の皆さんと担当のいわさき小学校が事務局となり活動しています。

今年度の活動は、①食育研修会 ②学校給食施設の研修と試食会 ③「おかあさんの詩」全国コンクール実行委員 ④第15回家庭教育セミナー実行委員 ⑤和賀地区PTA連絡協議会との連携等です。

食育研修会は7月30日に健康増進課栄養士の佐藤恵美さんを講師に「子どもを取りまく食生活、健康」についてお話して頂きました。



子どもの成長期において朝食や生活のリズムが大切なことや、食事のしかたで肥満の予防になり、脳の活性化にもなるというお話でした。

家族のどんらんと楽しい食事が子どもたちの成長に大切なことや、将来おとなになって自分で考えて食べる子に育つことなど、改めて考えさせられました。忙しい父親、母親が多いと思いますが、今一度「早寝、早起き、朝ごはん」を見直していきましょう。講話の後では地産地消の食事会を「ニコっとさん」で開催しました。講師の佐藤さんを囲んで様々な質問や意見が出され、終始和やかな雰囲気でもとても良い交流が出来ました。

給食施設の研修と試食会は、11月21日に藤根にある西部学校給食センターで行われました。平成16年に開設された西部学校給食センターはとても新し

く衛生管理・調理機械の充実など、安全・安心に配慮した施設でした。



また地産地消を目指して北上産の食材を積極的に取り入れているそうです。子どもたちの健康と美味しいと言ってくれる笑顔を励みに毎日の給食づくりをしている皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



第15回「おかあさんの詩」全国コンクールでは、5,068編の応募があり、市内の小学校からは13名の入賞者と4校の学校賞、5校の奨励賞がそれぞれ決まり、11月19日にはさくらホールで表彰式が行われました。



おかあさんの匂い
朝はかまどこの
けむりの匂い
夕はおべんどの
おかずの匂い
晩にはかすかな
お風呂の匂い

来年度も沢山の皆さんに応募していただきたいと思います。

今後とも、未来に生きる子どもの健全育成をはかるために、幅広く活動していきたいと思います。

最後になりましたが、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

報告 3

第59回日本PTA全国研究大会



全体会 記念公演

「みんなちがって、みんないい」

講師 乙武洋匡 氏

大学時代に大ベストセラーとなった『五体不満足』を出版した乙武洋匡さんは、大学を卒業後スポーツライターとして活躍しておりました。教員を目指したのは8年前に長崎県で起きた12歳の少年・少女が起こした事件がきっかけでした。

わずか12年で加害者となってしまった少年・少女のSOSのサインを、周りのおとなたちはなぜ気づくことができなかったのか、もっと子ども達にかかわって行かなければならないと思いました。自分の少年時代を振り返ってみると、周りのおとなに恵まれていたなと感謝し今度は自分が子ども達の為に力を尽くしていかなければならないと思い大学に入りなおして教員免許を所得した。

教師となり、学校は9割が「杞憂」で出来ているのかなと感じました。「あ〜なったらどうしよう」とか「こうなったらどうしよう」と考え、「だからやめておこう」となり、子ども達から体験する機会を奪ってしまっている。

学校だけを責めるわけではないが、苦情やバッシングを意識しすぎていて学校は臆病になっている。そのことで一番の被害者は子ども達ではないか。学校が「あれもやってみよう」「これもやってみよう」となるには学校と家庭、先生と保護者の信頼関係が大事ではないかと考え、毎日家庭に電話を掛け、子どもを「褒め」たり「がんばっていること」を話したりした。そうしているうちに保護者と良好な関係を築くことができた。

ひろしま大会



先生と保護者は、目の前にいる子ども達をよい方向に伸ばすという、思いを同じくしたパートナーであるという意識をしっかりと持つことが大事だと感じ、教員として目指したクラスは「のび太君でも居心地のいいクラスだった。それは、

1. 子どもの一番いいところを見つけてあげること。
2. その良さを徹底的に褒めて、自信をつけてあげること。
3. その子のよさをクラスの他の子どもに伝えてあげること。

誰にだっていいところはある。誰にだって出来ないこともある。だから、「みんなちがってみんないい」。



しかし、3月11日の東日本大震災では「みんなちがってみんないい」ことを自分自身が忘れてしまった。

自分には出来ないことが多く、「やはり障害者は弱者だ」と思い、友人たちが炊き出しやボランティアに行っているのを見て、すばらしいなと素直に思える反面、自分が

行けばかえって迷惑になると思い、悔しさを覚えた。一か月くらいたち、食糧や必要な物資が現地に届き始めた頃、次に大事なのは被災された人たちが「よしもう一度元気を出してがんばって行こう」と前向きな気持ちを取り戻してもらうこと、そのお手伝いなら出来るのではないかと思い、一週間被災地を回った。

石巻の小学校で授業をしたり、楽天イーグルスの試合で始球式をしたり。始球式では、「東北のみなさんに心をこめて投げさせていただきます」と言って投げた。

報告 4

第43回東北ブロック研究大会秋田大会

今年度の第43回東北ブロック研究大会秋田大会は秋田県秋田市で9月18日に行われました。今年は震災の影響ということで1日だけの開催で、北上市PTA連合からは4名の参加でした。



秋田市文化会館

前日の夜、岩手県PTAの単Pの会長と岩手県PTA連合会の執行部の方々とで懇親会が行われました。懇親会には沿岸の方も数名参加されていて、津波が押し寄せて来たときの話、「家は運よく残ったが、家を流された人に申し訳なくて電気が通っても使わないで過ごした」という話、そのほか、日本全国からの支援物資はとてもありがたくて感謝しているものの、物資はもう足りているので、これからはお金の方が必要なことなどを率直に話されました

その映像が会場に上映されると、感動の涙があふれた。

乙武さんは「震災で失ったものは多いが、残された人と人とのつながりを大事にして生きて行こう」という思いで投げさせていただいたと、その場面を振り返ってコメントした。

「みんなちがってみんないい」わかりやすく、そして感動したすばらしい講演だった。

当日は秋田市文化会館で、全体会、記念講演、特別プログラム、アトラクションがあり、記念公演は「今、PTAに求められていること」を演題に漫才師の春やすこさんが自身の子ども2人の子育て、PTA役員の経験を笑いを交えてお話になりました。

特別プログラムは毛筆デザイナーの佐藤佳奈さんが巨大パネルに芸術的な書を描いていただきました。



次にマジシャンのブラボー中谷さんによる秋田弁での爆笑マジックを披露していただきました。

アトラクションでは秋田市の山王中学校の吹奏楽部の皆さんの演奏、そして最後は会場の皆さんで「上を向いて歩こう」「ふるさと」を合唱して感動の中、秋田大会は終了しました。

北上市PTA連合会研修大会「教育講演会」に参加して



教育長挨拶

北上市教育委員会教育長 小原 善則 様

去る11月5日に行われた市PTA連合会の教育講演会は、教育委員長石川秀司氏を講師に「志育～逆境を生き抜くたくましい子どもをそだてるために」というテーマで行われた。氏は、「知育・徳育・体育」という学校教育が掲げている三徳の他に、「志育」が必要であるという。「志育」とは何だろうと興味深く聞いた。

北上でも最近、志授業が行われているという。22年度に北上中学校で講演が、23年度には和賀東小、北上中、いわさき小で行われた。その他にも、総合的な学習の時間などのテーマとして「二分の一成人式」や「立志式」などが各学校で行われている。

しなやかに折れずに生きていくためには、人生にも竹のような節が必要であるという。人生の節目は色々あるが、健全に子どもが育っていくには、さらにたくさんの「節」が必要で、伸び悩んだり、壁に当たったりしたときに「節」ができる。子どもが色々な経験を積んで「節」を作るときに、見守り、支え、鍛えていくのが「家庭・地域・社会」の大切な役割である。

国際的な幸福度ランキングでは日本は90位ということで、「幸せを実感できない国民」とみられている。すると、日本人は高い志を持つことができていないのではないのか。何のために勉強するのかという問いに、今の子どもたちは答えられないのではないのか、という疑問もある。



講師：北上市教育委員会教育委員長 石川 秀司 氏

志とは、「世のため人のためになる人間」になりたいと思うことである。「夢」は、自分自身の笑顔と繋がっているが、「志」は自分自身と自分の周りの誰かの笑顔と繋がっている。

最後に石川氏は、今見直される郷土の偉人として後藤新平を取り上げ、「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう。」という「自助・互助・自制の精神」で行けば、社会は良い方向に進むということを語られた。

私たちPTAは親として教師として、新平のいう素晴らしい「人を残す仕事」をしているということはこの講演を聴いたことで改めて強く思うことができた。



北上中学校PTA会長 中野 義明 氏

平成 23 年度岩手県 P T A リーダー研修会

研修会は、去る平成 23 年 7 月 9 日（土）盛岡市市民文化会館（姫神ホール）において、県内の各単位 P T A 会長（代表者）、市町村 P T A 連合会長、地区 P T A 連絡協議会長など約 570 名が参加をして行われました。北上市 P T A 連合会からは 23 名が出席をしています。

今年度の講話は、「岩手県教育課題と P T A に望むこと」を演題として、岩手県教育委員会委員長八重樫勝氏よりお話をいただきました。



「岩手県教育課題と P T A に望むこと」の

演題で講話される

岩手県教育委員会委員長 八重樫 勝 氏

3 月 11 日の東日本大震災により、沿岸地域の被災地の現状を見据えて、早急なる教育の復旧復興、学びの環境を整備しなければならない。また、子どもたちが受けた恐怖に対する心のケアなどを率先して進めること、それには家族の献身的な支えが必要であることなど震災から時間が経過していてもいまだに進展していないのが現状のようです。

こうした中で、我々 P T A が沿岸地域の被災地の方々と共に手を携え、心のケアをしっかりと行って震災前の状況にすべてがなれるよう手助けをしてまいりたいと講話を聞いて感じました。

その後は、平成 23 年度岩手県 P T A 連合会の事業計画及び予算について、一般社団法人への移行認可と共済事業について、東日本大震災の対応についての説明と意見交流会がありました。

一般社団法人への移行認可に伴い定款の変更、共済規定の設定、会費の改正、認可申請等について詳細に説明があり、一般社団法人化へは異論がありませんでした。しかし、それに伴う今年度からの会費の改正については、現行の児童生徒数割による会費が世帯割の会費になることへの異論が出て、なぜ現行の会費から変更しなければならないかの詳細説明を求める意見が出されました。

会費徴収についてはいろいろな考え方があり簡単には決まらないものだと思います。そういう意味では今回は意見交流の機会としてよかったと思います。

東日本大震災を経ての今回の平成 23 年度岩手県 P T A リーダー研修会は、いろいろな意味で大変有意義な研修会であったと思います。研修会の最後の意見交流では沿岸地域の学校支援及びボランティア活動を行っている、あるいは、これから行いたいとの支援に対する積極的な意見が多く出ておりました。

個人でも学校でも地域でもいいので、多くの人たちがこんな環境を生み出して活動してほしいものだと感じました。



あいさつをする

（社）岩手県 P T A 連合会会長 米澤 慎悦 氏

P T Aは親としての成長の場



北上市P T A連合会

会長 嶽間澤 健一郎

黒岩小学校P T A会長

今年度、北上市P T A連合会の会長を務めさせていただいております、黒岩小学校P T A会長の嶽間澤です。至らない点も多いかと思いますが、副会長、事務局、各単Pの皆様のお力添えを頂きながら、子ども達の健全育成のため力を尽くして参りますので、よろしくお願い致します。

まずは、三月に発生した東日本大震災と大津波により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早く復旧・復興できますよう、お祈りしております。

当市では、幸いそれほど大きな被害はなく、今ではすっかり元の生活に戻っています。しかし、震災後の苦しかった体験や今なお苦しんでいる人がいること、そして、普通でいられることの有難さを忘れないようにしていきたいと思います。

さて、P T Aとは、「子ども達の健全育成」を目的とした活動をする場ではありますが、その実、子どもの育て方を通して、親としても成長できる場だと感じています。

編集後記

3.11の大震災以降、「絆」「助け合い、支え合い」

「人は一人では生きられない」「今日を一生懸命生きる」・・・そんな事を考えさせられ、苦しい中にも、人の温かさ、すばらしさを感じる一年でした。いま一度絆を強め、子ども達が地域の子・社会の子として育っていきけるよう尽力したいと感じております。

今年度は活動が駆け足となりましたが、広報委員一人一人が役割分担し、皆で会報を作り上げました。ご協力に感謝します。

心優しき名文家が様々な切り口で第 33 号をお届けしました。

市P連ブログもご覧ください。

「親」という字は、「木」の上に「立」って「見」と書きます。この字の本来の成り立ちは違いますが、この字の形になぞらえるならば、親が身を寄せる「木」が親子の信頼関係と言えるのではないかと思います。

では、大きな「木」を育てるために必要なことは何か。それは、子どもと正面から向き合い、思いやりを持って接することだと思います。決して甘やかすのではなく、良いところは褒め、悪いところはきちんと叱る。気持ち がきちんと寄り添っていれば、正しい信頼関係を築けると思います。

それから、子どもに正しい行動を見せること。子どもは、親の言うことはなかなか聞きませんが、親の行動は真似をするものです。子どもは親の背中を見て育つと言いますが、正にその通り。あれこれ口で言う前に、親である我々が正しい行動をすることが大事だと思います。うそをつかないこと、周りへの感謝や思いやりの心を持ち、実践すること。子どもに恥ずかしくない背中を見せることで、親への信頼がより強くなると思います。

P T Aの活動には、親のあり方を学ぶ機会がたくさんあります。情報交換をし、学びあい、子どもと共に成長し、「親」になっていきたいと思います。

平成 23 年度北上市P T A連合会広報委員会

＜委員長＞	上野中学校	田村 真理
＜副委員長＞	北上中学校	中野 義明
	飯豊小学校	竹澤 雄功
	江釣子小学校	藤原 悟
	口内小学校	昆野 将之
	黒沢尻西小学校	千葉 貴幸
	黒沢尻東小学校	菅原 浩一
	立花小学校	軽石 昌憲
	南中学校	高橋 哲文
	和賀東小学校	高橋 永男
	和賀東中学校	高橋 穩至



<http://blog.kitakamipta.net/>